

受講番号 18089 学校名 浦ノ内中学校 氏名 横山 多賀子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第3学年 生徒数 20 名
 科目名 第3学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon (東京書籍)

クラスの様子・特徴

3年生は昨年度から担当している。家庭学習も良くでき真面目で、熱心に取り組む生徒が多い。仲も良く、すぐにペアワークもできる。しかし、理解に時間がかかったり、個の特性に応じた支援・配慮のいる生徒や、英語学習に今一つ興味の持てない生徒もいる。

問題の確定

CRTで4領域全てが全国比に達していたが、小領域別では「基本的な英文を読みとること」が唯一、達していなかった(比97)。

予備調査

A 授業の観察

2年生の当初はALTとの会話や教科書の音読が苦手な生徒も多かったが、取り組みの中で徐々にできた。TFテストもきちんと取り組めるが、要点を聞いただけでは、内容を理解しにくい者もいるので、板書やプリントで日本語訳の解説をしてきた。

B 生徒による授業評価

定期的に行ったアンケートから、ほとんどの者が意欲を持って取り組めていて、音読練習、シャドウイング、ペアワーク、前での発表、単元テスト、英語の歌、ALTとの授業の中でのローゲーム、ワークでの基礎事項の確認・演習が人気が高いことが分かった。

C 学力データ

CRTでは領域別で「聞くこと」(全国比110)「読むこと」(同101)「書くこと」(同104)「話すこと」(同111)と4領域全てで全国比を上回っていたが、小領域別で「基本的な英文を読みとること」(同97)が唯一全国比に達していなかった。

リサーチ・クエスチョン

基本的な英文を読み取る力を高め、自主的に、内容を理解しながら読もうとする態度を身につけさせるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

読めない教科書を何を書いているかわからず、授業が分かったと思えない。読み取る力を付けるためにも、まず読めるということが大切だから、音読の練習を多くとり、英語のリズムや発音に慣れさせて、同時通訳のようにCDの英文リピートの間を利用し、意味を自分の言葉でつぶやいてみるようにさせると、意味を意識しながら、同時に読めるようになるであろう。

実践1

シャドウイングの時、お手本を示し、少しずついい事を分かって、励ました。シャドウイングが上手になったところで、文字を見ず、目をつぶってリピートさせた。ペアでの読みの練習や、会話練習をして、上手にできたら、褒め合うようにした。英語の歌を歌って、楽しみながら、英語のリズムや発音に慣れさせた。また、朝の読書の取り組みに習って、掃除の時間に(週2～3回)英語の曲を流し英語に楽しく親しむ機会を作った。

検証1

シャドウイングはとても効果的と感じている生徒は多く、意欲的に取り組めた。いきなり行うのではなく、意味の確認をして、ある程度CDでリピート練習した後になると、内容を理解しながら読めるので、より効果的であった。「速く読めるようになった」「相手があるので実際の会話のようで、すごくよい」などほとんどが肯定的であった。英語の歌も肯定的な意見がほとんどであった。

仮説2

英語の自主学習ノートや、基礎のまとめと入試対策を兼ねた問題集を自主的に提出させたり、夏休み、冬休みや加力の時間に自分で解く時間を設定することにより、既習の基本文、単語、連語を読み書きできるようにすれば、英語学習に対する自信が付き、自主的に英語力(聞く、話す、書く、読む力)を伸ばそうとし、英文を意欲的に理解しながら読もうとする態度も高まるであろう。

実践2

単語と基本文のテストをし、再テストも行った。総仕上げ問題集と家庭学習ノートを週に1度提出させ添削して返したり、評価に入れた。総仕上げ問題集は、はじめは「基本」を行わせ、力が付いたところで「応用編」をするよう指導した。夏の課題として「基本」の部分の指定し、宿題とした。その後、週1度指定した日に提出させて、終わっていない者は冬休みに仕上げるようにした。家庭学習ノート(英語)は2年次から続けてきた。

検証2

問題集は、12月までにほとんどのページが終わった生徒もいた。アンケートでは、「単語など以前より覚えた」「今までに習ったことの復習ができてとても役立つ」「沢山問題があって自分で考えて覚えることが出来る」など肯定的な意見が多かった。家庭学習ノートは、何冊も終わらせた生徒が多く、「週1度なので、好きな時間にできて、自分で学習する習慣が付いた」などの意見も多かったが、期限までに提出できない生徒もいた。

仮説3

導入の後、単語の意味と基本文の確認をし、1度本文をCDで流した後にペアで大きな意味の確認をし合えば、全員が内容を考えるようになり、教え合い、伝え合うことの大切さに気づくことで、学習への意欲が高まるであろう。

実践3

内容理解の力を高めるため、同時通訳のように、英文を聞いてすぐ、大きな意味が自分の言葉で言えるようにしようと、CDの英文音読の後のリピートの間を利用して、意味を考える時間を確保した。次に個々に意味をつぶやくように指示したが、それではきちんと正しい訳を言えているかの確認が難しかったので、ペアになって大きな意味の確認を言い合った。その後、答え合わせをしてどれくらい合っていたか確かめた。

検証3

「この活動が、内容をつかむための練習になっていると感じますか」という質問に対して5段階で評価してもらった。5(9名:45%) 4(7名:35%) 3(3名:15%) 2(0名) 1(1名:5%)(5=とてもそう思う)だった。「自分で訳すことによって内容をよくつかめた」「お互いの訳を言い合えるし、友達と教え合いや、相談もできていいと思う」など肯定的な意見がほとんどだった。

研究の成果

音読や意味の確認、会話練習に対する指導はかなり行ってきたが、一人ひとりが主体的に内容を理解しようとする態度を高めるための指導では悩んでいた。主に、指名されたり、挙手をした生徒が、訳を発表していたが、今回、全員が考え、力を伸ばせる場を設定できた。現在、総仕上げ問題集の比較的長い長文問題でも、ほとんどの生徒が、辞書を引ながら自ら解こうとすることができている。(大きな訳)をペアでし合う活動では、予想以上に楽しそうにお互いの訳を言い合い、意欲的に取り組めた。「楽しく読みながら覚えられ」や、「これから続けてほしいと思う」などの感想から、効果的であったと考えている。

今後の授業改善の課題

読解力が低い生徒は、覚えている語彙数が少なく、基本事項の定着が低く、読むスピードも遅いので、意欲的に基本文や基本的な語彙の習得ができるようにさらに工夫し、支援をしていきたい。興味を持って、楽しみながら読解力を高められるような指導法の研究や、読解力がどれほど伸びたかを知るための検証方法の研究もしたい。また、何を伝えたいのかを理解しながら、気持ちを込めて読もうとする力をさらに伸ばし、表現力を高めたい。